

佐渡米通信

こめる

2022年 9月号

発行日:2022年9月

編集人; 佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

夏季管理について

8/2~8/5まで島内約60箇所
で水管理指導会が開催されまし
た。台風の発生後に水稲のフェ
ン被害が予測されるため、水田の
水位を保つなど事前の対策につ
いての説明を行いました。発生し
た際の被害低減に努めます。

また、今年の佐渡の梅雨明けは6月28日と平年より25日早
く、暑い日が続きました。田植えを行った日によっては出穂期が
早まるなどほ場間差があります。ほ場ごとにこまめに生育をみ
て穂肥や追肥を確実に施用し品質を確保できるように管理をし
ています。



水稲カレンダー

指導会の様子をご
ちらからご覧
頂けます!



水稲水管理指導会

令和4年 第4回 おいしい佐渡米研究会 ～食味向上を目指して官能評価の取り組み開始～

今回の研究会では、品質・食味向上の取り組みについてや方向性について
の話し合いが行われました。JA佐渡では米の検査員の人材確保・
育成を行っており、「みばえ」の良い佐渡米に努めることにも繋がって
います。しかし、ここ数年食味ランキングで特A評価を逃す結果が続
いております。研究会での検討の結果、食味についても評価が出来る体
制にする必要があるとの認識に至り、本年度から組織的な取り組み強
化をします。これまで小規模で評価を行っていましたが、より客観的
に評価するために論文等を参考に体制の構築を検討します。官能評価
をより強化することで、外観品質と食味のデータを集積し一層品質向上
に繋がれると考えています。

今回の研究会では、最近の国産米の品質と食味の実態を調査するこ
とを目的に、市場流通している他産地の特Aランクの米や評価の高い新
品種米などの食べ比べを行いました。佐渡米のお米の特徴などを改め
て認識する重要な機会となりました。こうした取り組みが特A奪還にも
繋がると期待されます。



外観、香り、粘りなどのポイントを確認しながら総合的に食味評価をする様子



官能評価用のごはん

田んぼアート 草取りイベント開催

参加者は、稲の間
から生えている草
取りと江の掃除を
行いました!!



草取りできれいになった田んぼアートと記念撮影



草取りの様子

佐渡の米農家さんに インタビュー!!

新穂地区の本間恭介さん(30歳)は、コシヒカリ
(朱鷺と暮らす郷認証米、5割減減栽培)、こしいぶ
き、酒米を13町歩作っています。本間さんは6年前に
父の実家がある佐渡に“孫ターン”で東京から移住を
しました。本間さんは小さい頃にお正月やお盆など
年に4回来島し、祖父の農業の手伝いをするこ
とが楽しみだったと語られていました。祖父が亡くな
った際に田んぼを誰かが継がなければ耕作放棄地にな
ってしまう状況に居ても立ってもいられず移住を決
心しました。かけがえのない思い出を与えてくれたこ
の景色をそのまま残していきたいという一心で、お米
作りを続けられない人から田んぼを受け継いでいま
す。祖父の田んぼを引き継ぐことから始まった暮らし
は、新しい友人や知人の輪を結び毎日の暮らしに多
くの活力をもたらしてくれていると感じるそうです。

今後も規模を広げていき将来的には法人化を視
野に入れて頑張っていきたいとのことでした。本間さ
んは、「消費者の方からの『美味しいよ』の声がやり
がいに繋がります」と嬉しそうに語られていました。



自信をもって
作っていますので、
ぜひ多くの方に
食べて頂きたいです!!

祖父から継いだ田んぼを背景に暑さも吹き飛ばす笑顔の本間さん



新穂地域

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

